にいがた老施協
(社)新潟県老人福祉施設協議会広報誌
2012.12.25
No.16

「第18回新潟県老人福祉施設研究大会を終えて」

特別養護老人ホーム羽衣園
園長 佐藤清八

平成24年9月25日、26日の二日間に渡り、村上市において第18回新潟県老人福祉施設研究大会が開催されました。

さて、この研究大会がブロック毎の持ち回りとなったのは、5年前の第13回大会の村上市開催からと聞いております。幸い二日間とも天候にも恵まれ、絶好の秋晴れの中、当初は参加人数に不安もありましたが、交流会、宿泊及び分科会とも目標としていた前回の参加者を上回る事ができ安堵いたしました。これも偏に、実行委員会の皆様、事務局の皆様及び関係者の皆様のご協力の賜物と感謝申し上げます。

まず初日の全大会では、長年勤続された施設、事業所の中堅職員、管理職の皆さん等総勢173名の方が会長表彰を受賞された事に、心から敬意を表するとともに自分自身も受賞者に負けずに頑張らねばと心新たにしました。その後の記念講演では、バレーボールのロサンゼルス五輪銅メダリストで、スポーツプロデューサーの三屋裕子さんが「人生のデザイナー」と題して講演され、地域の方を含め約600人の方が耳を傾けました。三屋さんは、バレーボールを始めたきっかけや、現在は高齢者向けの健康づくり教室を開いている等をユーモアを交えて紹介されました。平均寿命が延びた事から「3年後、5年後の自分は何をすべきか。そのために今何をすべきか。一人ひとりがポジティブに人生をデザインしてください。」と強調されていました。引き続き、国際医療福祉大学大学院の竹内孝仁教授ら4人によるシンポジウムで今大会のメインテーマである「高齢者が地域で幸せを実感できる社会を目指して」をテーマに活発に意見交換されました。

夜の交流会は会場を瀬波温泉に移し、4つのホテルに分かれて行われました。全国的にも人気が高い村上の美味しい地酒が振る舞われ、村上の旨いもの「鮭、村上牛」に舌鼓を打ち、親睦を深めながら大変有意義な情報交換ができたのではないかと思っています。

翌日の分科会も4つのホテル、5会場に分かれて行われ、役割分担上落ち着いてじっくり聴く事はできず残念でしたが、各分科会を巡って、どの会場も真剣かつ熱気に包まれサブテーマである「ケアの標準化による科学的介護の実践」についての事例発表が行われ、活発な討議、意見交換を直接感じる事ができ、自分の施設においても新たな取り組みの必要性を痛感いたしました。

最後に、実行委員長として力不足ではありましたが、無事に事故もなく大成功の内に終了する事ができたのも大会に関わった全ての皆様のお蔭であり、お礼を申し上げ結びとさせていただきます。

Contents

第18回新潟県老人福祉施設研究大会を終えて……1
研究大会IN村上……2～3
第18回新潟県老人福祉施設研究大会　全体会司会の感想…3～4
研修だより……4～5
施設長リレーコラム……6

研究大会IN村上

高齢者が地域で幸せを実感できる社会を目指して

９月25日の朝は快晴で、日本海東北自動車道を北上する車の中から飯豊連峰の山稜がくっきり見え、粟島の姿も地図で感じるよりも大きく眼に飛び込んできました。今日の研究大会がうまく運んでくれれば良いがと思いながら、８時過ぎに会場に到着しました。

こんな感じで平成24年度の研究大会が始まりました。

朝９時から、第１ブロックの会員の皆様からお手伝いをいただき会場整備が始まりました。会場の設営担当者、受付の準備担当者、出展業者など、午後１時の開始に照準を合わせて順調に準備を進めました。１時過ぎの受付の様子です。和やかな雰囲気のうちに受付がスタートしました。

全大会の司会は「特別養護老人ホーム東蒲の里みかわ園」の管理者・加藤真由美さんにお願いしました。落ち着いた語り口で、声もよく通り、素晴らしい司会でした。

近藤会長のご挨拶です。今回のテーマを採用した背景、あるいは介護保険制度が変わってゆく中で、2025年に照準を合わせて、今私たちが出来ることは何か、などについてお話しいただきました。

本会会員に10年間に渡って送迎用車輌の贈呈という形で多額の寄付をいただきました、新潟県遊技業協同組合様に対し、感謝状と記念品をお送りいたしました。

今年は173人の職員の皆様が永年勤続表彰を受賞されました。受賞者を代表して、特別養護老人ホーム二の丸の介護主任伊藤孝紀氏から、受賞の喜びと今後の抱負などについての謝辞をいただきました。

今回の研究大会のメインゲストである、元バレーボール選手でロサンゼルスオリンピック銅メダリストの三屋　裕子　氏の講演が始まりました。予想通りの長身とソフトな語り口はとても好感が持てました。バレーボールを通じて切り開いてこられたご自分の人生を90分にわたり講演されました。

三屋氏の講演が終了し、次のパネルディスカッションまでの幕間を利用して、写真に納まる近藤会長、市井副会長です。

翌日は、午前９時から分科会が始まりました。写真は第１分科会の様子です。現在の５分科会構成になって３年が経過しました。皆様から改めてご意見をいただき、来年はさらに充実した分科会となるよう企画したいと思います。

第18回新潟県老人福祉施設研究大会 全体会司会の感想

特別養護老人ホーム東蒲の里みかわ園
管理者
加　藤　真由美

今年の研究大会は、９月25日・26日の２日間の日程で、「高齢者が地域で幸せを実感できる社会を目指して」をテーマに、第一ブロックの村上市で開催され、スタッフとして全体会の総合司会を務めさせていただきました。大会当日は、多くのスタッフの方々が手際良く準備を進められている中、緊張だけが高まりピークを迎えた時、大会が開会しました。最初に発した言葉がマイクを通して会場内に響きわたると不思議と緊張がほぐれた気がします。「その調子であせらずに」「もう少し・もう少し」と自分自身に言い聞かせ、最後の挨拶を終えた時は、「ほっと」安堵したことを忘れません。ご参加いただいた方々の温かい拍手や関係スタッフの方々のご協力のお陰で無事終了することが出来ました。

また、記念講演講師の三屋裕子氏の「人生のデザイナー」を傍で聞けたことは、心に残る体験となりました。このような大きな大会での司会は、初めての経験でしたが、貴重な機会を与えていただき、協力してくださった多くの皆様に感謝申し上げます。本当に有難うございました。

発表を終えて

養護老人ホーム龍宮荘
主任生活相談員
松　本　理　衣

第18回新潟県老人福祉施設研究大会、第５分科会のテーマにおいて、「養護老人ホームにおけるターミナルケア～住み替えせず最期まで～」と題して発表しました。養護老人ホームの現状を知ってもらう場が少ない中、大変良い機会となりました。また、発表するにあたり、施設の取り組みを改めて振り返ることができ、自宅にいても、次の住処にいてもご本人が幸せだったと思ってもらえるような施設づくりが大切だと改めて学んだ研究大会でした。

第18回研究大会にスタッフとして参加して

特別養護老人ホームたかつぼ　主事　村　田　良　子

今回の研究大会は、地元開催とあって第１ブロックの方々と一緒に準備などで参加させていただき、楽しく過ごさせていただきました。

また、分科会においては、副責任者として発表者の推薦や当日の司会進行を担当させていただき、不慣れで大変ご迷惑をおかけしましたが、皆さんのご協力で無事終えることが出来ました。

この大会を通じて、福祉の仕事をされている皆さんの優しさ、包容力、団結力を改めて感じさせていただきました。本当に貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

看護師
特別養護老人ホーム垂水の里　佐　藤　秀　子

去る９月25、26日、村上市を会場に行われた第18回新潟県老人福祉施設研究大会は大勢の会員の参加を頂き成功裏に終えられた事は大変、喜ばしく思います。

さて、私はスタッフとして参加させて頂きました。大会当日は係員の打ち合わせから始まりましたが、このような大きな大会のお手伝いは初めてでしたので、どのように動いてよいのか解らず戸惑う事ばかりでした。受付係として、参加された皆様を会場へ誘導する事も大切な役目であり不備なく案内出来たかなと思う事もありました。分科会では参加人数が多く資料が不足するアクシデントもありましたが開始前には滞りなく揃い安堵いたしました。２日間に渡り、大会事務局はじめ他のスタッフの方々の力添えを頂き無事、終了することが出来ました。また、このような貴重な経験をさせて頂いた事に感謝申し上げます。ありがとうございました。

研修だより

平成24年度新潟県喀痰吸引等研修

「新潟県喀痰吸引等研修」は平成23年度から正式なカリキュラムで実施されていますが、今年も同じ内容で10月１日から開催されました。今年は新潟、長岡、上越の３会場で行われ、受講者も昨年の121人から190人と大幅に増加しました。

最初は９月の２日間で指導看護師講習が行われ、その後講習を修了した看護師から介護職員が研修を受けるという形式です。

研修内容は、講義50時間、演習１日、その後筆記試験があり、合格者は実地研修を行い、終了までに３～４か月かかるという長丁場の研修です。介護保険制度の一部改正が行われ、介護と医療の連携が叫ばれていますが、この研修がお互いの業務を理解する良い機会となり、今後更なる連携が進むことを期待します。休日も返上でご協力下さいました看護職員の皆様、本当に有難うございました。来年は研修実施機関が現れてくれるのではないでしょうか。

指導者講習の様子です。Ｑちゃん（吸引シミュレーター）やルートモデルを使って指導方法を学びます。自分でやってしまうのは簡単ですが、未経験の方に教えるのは難しいものです。

50時間の講義の様子です。医療の倫理から始まり、医療制度、救急蘇生法、感染予防、痰吸引概論、実施手順、経管栄養概論、実施手順と進みました。多い日で１日８時間の座学はさすがに堪えます。夕方には頭がボーっとしてきます。久しぶりに学生時代を思い出しました。

講義の合間に指導看護師による実演が入ります。講義だけではわからないこと、滅菌手袋やセッシの扱い方、ルートモデルを使った気管カニューレの扱い方など、演習の前に現物で説明してもらえることは助かります。皆真剣な面持ちです。

チェックリストを持つ指導看護師の目が光ります。真剣な表情でクレンメを操作し、管の中の残留水を抜いて(？)います。

自然に肩に力が入ります。指導看護師の心配そうな顔つきが、後姿からもうかがえます。

演習会場の様子です。広い会場の中央にＱちゃん（吸引シミュレーター）や経管栄養のシミュレーターが30台近くずらりと並んでいて、最初は異様な雰囲気でした。模擬痰や吸引器、イルリガートルやシリンジなど本番さながらの研修は、準備も大変でした。

施設長リレーコラム

「ボランティアさんに感謝して」

特別養護老人ホームみねの園 園長 **古澤 美知子**

みねの園は、地域の方々の「住み慣れた土地で暮らし続けたい」という思いを実現するため、平成６年４月１日開設しました。

施設は、高田平野の南東部に位置し、四季折々の妙高連山の壮大な景色を眺めることができます。入所定員30名の小規模特別養護老人ホームで、併設して短期入所（20名）・デイサービス（一般型・認知対応型）・訪問介護・居宅介護の介護サービス事業を行い、小規模ながら複合的に利用者のニーズに応えています。

他に上越市から清里高齢者生活福祉センターの指定管理・地域包括支援センターの委託を受けています。ご利用者の意思及び人権を尊重し、ご利用者の立場にたち、笑顔と真心のこもったサービスを心掛けています。

私は、特養・居宅介護等５つの事業を経験し、平成23年５月18日、施設長に就任しました。その間、多くの皆様のご支援により、みねの園は一歩一歩前進してきました。

その中で、利用者・職員を支えて頂いている、ボランティアの皆様の紹介をさせて頂きます。現在、定期的にお出で頂いている方は約30名で、年間の活動延べ人数は400～500名です。当施設は職員やボランティアさんとの意見交換や資質向上を目的として、年２回意見交換会を開催しています。平成24年後期には、職員を講師として「認知症の症状と予防について」の講習会を行いました。過去には、寝具の整え方・感染症の予防対策・個人情報と守秘義務について等の講習会を行い、ボランティア活動や日常生活に役立てて頂いております。

これからも、地域の方々に親しまれる施設、安全・安心・快適の上に成り立つ施設を目標に、よりよいサービスの提供に努めて参ります。今後ともよろしくお願い致します。

ボランティアさんを対象とした認知症の講習会の一コマです

編集後記

少子化、高齢化とともに日本の世帯構成で最も顕著なことは「単身世帯」の増加と言われています。国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、2030年には単身世帯が38％位まで増加するとのことです。ファミリーレストランやスーパーマーケットが苦戦しているそうですが、この単身世帯をこれからのターゲットにした商品開発をしないとなかなか売り上げが伸びないのではないでしょうか。コンビニで生鮮食料品が売られる様になりましたが、単身世帯にとっては有難いことでしょうね。しかしコンビニは買い物が楽しくありませんね。どこへ入っても商品構成は同じで、Ｓにいるのか Ｆにいるのかわからないです。もっとも「コンビニエント」が第１ですので仕方ありませんが。スーパーも発想を転換し、１人用のパックのウエイトを増やすと変わってくるのではないでしょうか。

発行所　社団法人　新潟県老人福祉施設協議会
新潟県新潟市中央区上所2丁目2-2 新潟ユニゾンプラザ２F
電話 025-281-5534
発行人　近　藤　和　義

にいがた老施協
平成24年12月25日発行
印刷　阿部印刷株式会社